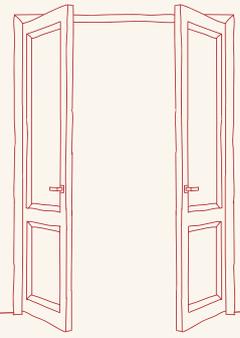


# 私のネクストステージ

—退職者への質問状—

Vol.23



## 経営者になったことで 実現できた地域再生

元関市職員

長屋 睦さん (64歳)

2012年3月定年退職

【ながや・むつみ】1952年、岐阜県板取村（現関市）出身。1976年板取村役場入庁。教育委員会事務局を皮切りに総務課にて税務畑が長く、地域の息づかいを肌にもみこむことができた。その後は企画、産業課、そして教育委員会に戻り、PTA活動を絡めての「ふるさと教育」に没頭する。平成の大合併前は、弱者と言われる老人福祉センターに係る各組織の合併業務に就く。合併後はその確認業務にあたり、その後、板取事務所に戻り所長を補佐し、新たな体制作りにあたる。そして、所長となり退職を迎える。



—長屋さんが、定年後の仕事としてカフェ「風土や。」をオープンしようと思われた、きっかけは何だったのですか。

私の出身地である板取村は2005年に関市と合併し、現在は板取地区となっています。この地区の入口であり出口でもあるような場所に、地域の活性化を目的に店舗が建てられたのですが、運営がうまくいかず、3年間ずっと閉ざされたままになっていました。

私は市役所を定年する前までに、何とかその店舗を再オープンさせたいと思い、必死になつて運営してくれる人を探しました。しかし努力も虚しく、手を挙げる人は現れませんでした。「だったら、自分でやるしかない」と思い、定年後にカフェをオープンさせる決心をしました。いわば、ミイラ取りがミイラになったということです。

—カフェを始められることについて、ご家族の反応はいかがでしたか。

開業を意識し始めた時から、妻をはじめ家族とは事あるごとに話し合ってきたので、家族も私の想いを理解してくれています。

—開業資金はどうされたのですか。

退職金でまかないました。

—カフェでは、どのようなメニューを出されているのですか。

日替わりランチで唐揚げや味噌カツも出していますが、何と言っても、一番人気は「じゃがいもドーナツ」です。これは私が産業課で地域の産品づくりに携わった際、私

の妻を含めた地域の女性たちが考案したもので、地元で採れたじゃがいもを原料にしています。

「風土や。」をオープンするにあたりメニューの一つに加えたところ人気となり、今では一日500個以上売れる時も度々ある看板メニューとなりました。このじゃがいもドーナツのじゃがいもをはじめ、米、大豆は私自身が手塩にかけて育てていますし、野菜も地域の農家から提供してもらっています。

ドリンク類はコーヒーや紅茶といった定番に加え、ゆずジュース、しそジュース、ゆずソーダなどもあり、価格は400〜500円です。朝8時から11時までのモーニングサービスタイムは、ドリンクをオーダーした方に、茶碗蒸しのほか日替わりでバタートーストやサラダなどをサービスで付けています。

—それは、名古屋など中京圏で見られるモーニング文化ですね！ 料理づくりは長屋さんもされるのですか。

いいえ。料理は、妻と手伝いに来てくれている地元の女性でやってくれています。私は皿洗いと渉外担当、それに街道案内人ですね。

—「街道案内人」とはどのようなことですか。

板取地区は岐阜県の北西部に位置し、標高1000m級の山に囲まれています。面積の99%を山林が占めるようなところで、周囲には店らしい店もない中、「風土や。」は山の灯台のような存在となっています。しかも、ウチの前の道路は飛騨高山や下呂

豊かな自然と調和した古民家風の建物



山の中にあるため道の駅の役割も果たしている



地産地消のランチは肉も野菜も鮮度が違う



サービスタイムのドリンクにはたくさんのおまけが！



じゃがいもドーナツは売切御免の大人気商品

温泉に通り抜ける裏道にあたるため、ドライブやツーリングで訪れる観光客も多く、私は道案内をしたり観光情報を提供したりしています。

ちょうどこのカフェの裏手にある池もきれいなので、来店したお客さんに「せっかくなら、ちよつと見て行ったらどうですか」と薦めていたところ、写真がSNSで話題を呼びましてね。誰が名付けたか「モネの池（通称）」なんて呼ばれるようになって、今じゃすっかり観光名所です。

—— **カフェの収入は安定しているのですか。**

オープンから3年間は、何とか経営できている程度の収入で、細々とやっています。それが「モネの池」が脚光を浴びてからというものの、急激にお客さんが増えました。こんな山の中なのに、「モネの池」には平日でも2000〜3000人の人がやって来るんですからね。観光バスで来られると、カフェのトイレにも行列ができてしまうほどです。

—— **カフェをされて一番よかったことは何ですか。**

役所にいた頃から、私は一次産業である農業に二次産業の加工、三次産業の流通を複合させた六次産業をこの地区で実現させたいと思っていましたのですが、それを実践できていることです。縦割りの組織だと実現までにはかなりの時間を要しますが、経営者となった今では思い立ったらすぐに実現に向けて行動がおこせます。それが一番よ

かったことですね。

役所がやれないこと、やらないことをやれるというのも、自営業のおもしろいところです。困難なことをやる際、相手からの働き掛けを待つのではなく、自分がまずやってみる。経営者となったことで、そんな「先施の心」が体感できている気がしています。

—— **市役所で働かれていた頃と比べ、一番変わったことは何ですか。**

変化に富んだ毎日を過ごしているということ。日本全国はもとより、海外からのお客さんもやって来ますし、地元を離れていた同級生もよく訪ねてきてくれます。そんな彼らとのコミュニケーションは新鮮ですし、大いに刺激になります。「モネの池」効果でてんでこ舞いの毎日になってからは、体重が大幅に減ったことも変化の一つですね。

—— **カフェはいつまで続けられるつもりですか。**

「この地を語り継いでくれる熱い人物が現れるまで」ですかね。

—— **今後やりたいことは何ですか。**

妻と、これまでお世話になった皆さんに「ありがとう」を述べたいです。

—— **最後に、現役の地方公務員の方にメッセージをお願いします。**

職員一人一人に諸般・万事、自らが企業の経営者になったくらいの気概をもって、事にあたっていただけだと思います。

—— **お忙しい中、貴重なお話をいただき、ありがとうございました。**